



市民と市長の座談会から ～自ら考え自ら行動する～

▲座談会ではさまざまな意見が寄せられ、皆さんの地域を思う気持ちの強さを改めて実感

地域 を守る

本年度、中貝市長が29の地区を回り、市民の皆さんとの座談会を開催しています。

この座談会では、市長が自ら市の取り組みやまちづくりについて説明し、皆さんの意見をお聞きしています。

その中の一つに、豊岡が直面

する最大の課題である『コミュニティ崩壊の危機』に関することがあります。

皆さんは、『コミュニティ崩壊の危機』をどのように感じていますか。また、そのことに対して、どのように行動しますか。

マイナスイメージ

これまで、田舎には働く場所がない、夢がないと言って、多くの田舎が子どもたちを都会に送り出してきました。その結果、子どもたちは田舎を離れました。

田舎では、人口が減少し「若者がいない」「空き家が増えていく」「行事ができない」「住民同士のつながりが弱くなった」など、田舎の現状を表すイメージは、マイナスのものが多くなりました。

気付き

確かに、田舎には足りないところもあります。都会と比べれば、生活の便利さという点では劣っているかもしれません。交通の便が悪い、店が遠い…など。

では、田舎には良いところはないのでしょうか。

近年、田舎に移住を希望する人たちが増えており、市役所にもよく問合せがあります。

また、他の地域から豊岡に来て、豊岡のために頑張っている人たちもいます。この人たちは、豊岡という地を選びました。なぜ、豊岡を選んだのでしょうか。

良さの再認識

他の地域から来た人は「豊岡の水はおいしい」「食べ物がおいしい」「自然に癒される」「人がいい」など、良いところをたくさん挙げます。私たちにとっては当たり前と思っていたことがばかいです。

そこに住む人は、その良さに気付かず、他の地域から来



▲コミュニティ崩壊の危機への取り組みを語る
中貝市長

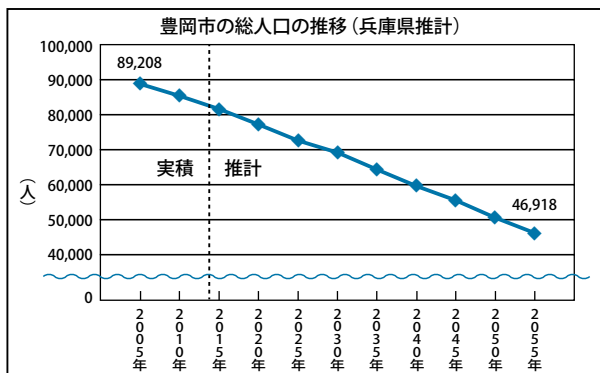
た人によつて豊岡の良さを知ることがあります。私たちは、少しでも都会に近づこうとするのではなく、都会にない豊岡の良さ、豊岡らしさを大切にすることが必要だと再認識しなければなりません。

市民と市の協働

豊岡の人口は、今後も減り続ける予測が出ています（グラフ参照）。日役（村役）ができない、祭りができないなど、区の元気が無くなつてきています。コミュニティ崩壊の危機が存在します。市民と市が協働して対処しなければなりません。

地域 コミュニティ 地区(公民館単位)の取り組み

《問合せ》コミュニティ政策課 ☎21-9020



住民の役割	市の役割
地域を守るために、自ら考え自ら行動する。 そのために、地区公民館の区域で地域を支える「コミュニティ組織」の立ち上げをお願いします。	今後も各地域が持続可能な地域づくりを推進していくことを支援する。 そのために、財政的支援のほか、地域の活動に対する協力体制の充実が求められます。

地域を守るために、市民がやるべきこと、行政がやるべきことを明確にし、ともに汗をかかなければなりません。難しいことですが、避けては通れません。



- ・市民と市長の座談会では、コミュニティへの関心も高く、多くの意見や提案をいただいています。
- ・さまざまな専門知識を持つ地域での人材を積極的に活用すべきだ。
- ・自主防災組織を周辺の区と合同で運営すべきだ。
- ・先が見えない不安感がある。やらなければならぬと思うがどう行動したらよいかわからない。

など

地域を良くするための近道はありません。一步一步着実に進むしかありません。

現在進めているモデル地区の取組を参考にしながら、市が作成する「新しい地域コミュニティのあり方方針」にその道筋をしつかりと示していきます。

座談会での意見

地域をつくる

地域コミュニティ研修会

5月15日、地域コミュニティの先進的な取組を学ぶ研修会を、じばさんTAAJIMAで開催しました。島根県雲南市の新しいいきいき会と海潮地区振興会の会長が、それぞれの取組を発表し、200人の市民、関係者が学びました。

自ら考え自ら行動する地域づくりが進んでいる雲南市では、平成16年11月の合併時から地域コミュニティづくりに取り組んでいます。住民発意で地域の住民や組織、団体が地域課題を自ら解決する組織として、地域自主組織を設立してきました。地域の長所を活かし、地域に足りないところを補完する活動を積極的に展開しています。

新市いきいき会

新市いきいき会は、組織の設立が雲南市で一番遅かった地域。しつかりした議論ができず、他より2年遅れた。この時間は取り戻せない。

しかし、現在は「まちづくりプラン」を作成し、地域づくりを展開している。

特に、独自に住民情報を収集し、住民福祉カードを整備し、これを管理しながら要援護者の支援体制を築いている。支援を必要とする人を「お願い会員」、協力者を「まかせて会員」として登録し、真に有効な仕組みができたと自負している。行政にはできない仕組みである。

「すき」なまちに「て」を加え「すてき」なまちへ変えていく。さあ、今度は、どんな「て(手)」を加えるか。



▲新市いきいき会の小林和彦会長、地域づくりを熱く語る

海潮地区振興会

海潮地区振興会は、雲南市の中でも特に積極的に事業を展開し、新しいことにもチャレンジしている。

地域が運営する子育て支援事業(うしおっ子ランド、放課後児童クラブの運営)をはじめ、定住促進、温泉施設の指定管理、観光資源の整備から観光ガイド、地域の伝統文化である神楽の保存まで幅広い活動が特徴。

「自らの地域の課題は、自らの責任で取り組み、汗をかき、地域を守る」「困難な事柄については、行政と協働で課題解決に取り組む」ことを活動の基本にしている。

また、リーダー研修なども行い、相互の意思疎通を図って、人材育成も進めている。



▲海潮地区振興会の加本恂二会長、多彩な活動を采配する